

第48回「てのひら文庫賞」読書感想文全国コンクール

文部科学大臣賞 作品

文部科学大臣賞

2年てのひら文庫部門／読んだ本・なんじやもんじや

なんじやもんじやはすごいんじや

千葉県聖徳大学附属小学校 深山武臣

なんじやもんじや。おもしろくて、言いたくなっちゃうことばだなあ。あつという間になんじやもんじやが頭からはなれなくなった。そうしたらびっくりした時に、なんじやもんじやつて口から出てくるようになった。ちやった。

ある日、家の中で小さな何かがニュロっとうごくのを見た。ぼくはびっくりして、「なんじやもんじや、何かいる。」って、大きな声でさけんだんだ。するとキッチンにいたお母さんが、「どんなもんじや。」と言ってきた。だからぼくは、「すごいんじや。早く来てよ。」って、また大きな声で言ったんだ。そうしたら、なんだかすぐおもしろくなっちゃって、家ぞくみんなで大わらいをした。とくにお姉ちゃんはお虫がにがてだから、いつもはこわがって、「キヤー。」とさけぶのに、なんじやもんじやのおかげで、みんな楽しくわらい合うことができた。そうそう、ニュロとうごいた何かはね、小さな小さなヤモリだった。ぼくは今、

思い出のこのヤモリを虫かごで大切に持っている。なんじやもんじやは、ぼくの家ぞくにえがおをくれたんだ。

ねずみの森に、なんじやもんじやがやってきた。ねずみたちはなんじやもんじやをおい出すために、よわむしねずみにたべられてみるように言ったんだ。みんながこわがるほらあなに一人で行って、なかまたちとのやくそくをまもったよわむしねずみは、よわむしなんかじゃない。強くてさい高にかっこいいねずみだ。このさい高にかっこいいねずみは、やくそくをまもるまっすぐな心とゆう気をもっていたんだ。そして、新しいせかいを手に入れた。ほかのねずみたちは知らない新しいせかいをね。このねずみを見て、ほかのねずみたちも、ほらあなの中に何かいいことがあると気づいているはずだ。でもゆう気が出ないから、今もずっとなんじやもんじやをこわがったままなんだ。なんじやもんじやは、ゆう気を出してちようせんすることの大

切さを教えてくれたんだ。

ぼくの家にはヤモリのなんじやもんじやが来て、ねずみの森にはこうもりのなんじやもんじやが来た。もしかしたらなんじやもんじやつて、その時のみんなにとって本当に大切なことを教えてくれる「ばけもの」なのかもしれない。ぼくの家ぞくはあの時、こわがることよりわらい合うことが大切だったんだ。ねずみたちはあの時、ゆう気を出すことが大切だったんだ。

そうか、なんじやもんじやは「なんだかわけのわからないもの」のままでいいんだ。だってその時に本当に大切なことを教えてくれるものにばけるんだから。なんじやもんじやつてそのためのまほうの合いことばみただ。つぎはどこにどんななんじやもんじやがやって来るのかなあ。